

# 平成30年度全国学力・学習状況調査より

## ～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する

## 結果の分析と改善に向けた今後の取組について ～

福島市教育委員会

### 1. はじめに

福島市教育委員会では、平成30年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々の御理解と御協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたくて考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、御覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

### 2. 調査の概要

(1) 調査日時 平成30年4月17日（火）

(2) 調査対象

市立小学校48校の第6学年の全児童、市立中学校20校の第3学年の全生徒

(3) 調査内容

- 小学6年 国語A(知識)、国語B(活用)、算数A(知識)、算数B(活用)、理科
- 中学3年 国語A(知識)、国語B(活用)、数学A(知識)、数学B(活用)、理科
- 生活習慣や学習環境等の質問紙調査

### 3. 教科に関する調査の結果（平均正答率）

(1) 小学6年

教科	福島市		福島県		全国	
	A	B	A	B	A	B
国語	72	56	72	54	70.7	54.7
算数	65	52	64	51	63.5	51.5
理科	61		60		60.3	

(2) 中学3年

教科	福島市		福島県		全国	
	A	B	A	B	A	B
国語	76	60	76	61	76.1	61.2
数学	64	45	64	44	66.1	46.9
理科	65		66		66.1	

### 4. 全国の結果から分かる本市の特徴（○全国を上回っている主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学6年

国語A (知識)	○漢字の読み書き ○目的に応じて文章の内容を読むこと ▲文を正しく書くこと ▲文章全体の構成の効果を考えること
国語B (活用)	○よさを伝える文の書き方 ○文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。 ▲目的や意図に応じ、伝えたい内容を明らかにして詳しく書くこと
算数A (知識)	○百分率を求めること ○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること ▲除法で表すことのできる2つの数量の関係を理解すること
算数B (活用)	○枚数、本数、個数を関連付け、根拠を明確にして式や言葉で説明すること ▲複数の情報を関連付けて解釈し、表現、判断すること
理科	○人体のしくみなど、自然事象についての知識・理解 ▲ろ過の適切な操作方法など、観察・実験の技能

(2) 中学3年

国語A (知識)	○正しい漢字を書くこと ○古文に対する基礎的・基本的な知識 ▲的確に話すこと ▲目的に応じて構成を考えて書くこと
国語B (活用)	○質問の意図を捉えること ▲目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと ▲文章とグラフの資料との関係を考えながら内容を捉えること
数学A (知識)	○絶対値の意味を理解すること ○数量の大小関係を不等式に表すこと ▲代表値や確率の意味について理解すること
数学B (活用)	○グラフから情報を読み取ること ▲図形の性質を筋道立てて論理的に考察し、表現すること ▲事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明すること
理科	○神経系など、生物的領域の知識・理解・技能 ▲電流に関する計算など、物理的領域の知識・理解・技能

# 福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

## 中学校3年国語

### 育っている力

- ① 文意に合う言葉を正確に選択するなど、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力が身に付いています。
- ② 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むなど、古典の文章を読むための基礎的・基本的な知識がよく身に付いています。
- ③ 自分が伝えたいことを聞き手が正しく理解しているかどうか、反応を確かめながら話すことの大切さを理解しています。

### 育てたい力と手立て

- ① 目的に応じて文章を読み取り、内容を整理して書く力  
→ 文章の中心部分と例示や引用等の部分の違いを意識しながら読み分け、それを生かして書く学習を進めていきます。
- ② 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える力  
→ グラフが文章の中でどのような役割をしているかを考えながら読んだり、書いたりする学習を大切にしていきます。

## 中学校3年数学

### 育っている力

- ① 絶対値の意味の理解や指数を含む正負の数の計算など、「数と式」に関する基本的な計算の知識・技能が身に付いています。
- ② 数量の大小関係を不等式に表すことや単項式どうしの除法など、数量の関係を文字式を用いて表し計算する力が身に付いています。
- ③ 図形をある直線を軸として回転させてできる立体を導き出すことや、与えられた立体の見取図や投影図を選んだりすることなど、空間図形を読み取る力が身に付いています。

### 育てたい力と手立て

- ① 図形の性質等を論理的に考察し、表現する力  
→ 図形の性質の証明や、既習事項を生かした考え方について、具体的な操作を通して理解を深め、文字や図、式等を使って表す学習を大切にしていきます。
- ② 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する力  
→ 与えられた情報を分類整理し、適切に選択し処理する力を伸ばすために、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明させる学習を大切にしていきます。

## 中学校3年理科

### 育っている力

- ① 刺激と反応についてよく理解しています。その装置や操作に対応させたモデル実験の問題がよくできています。
- ② 化学変化と熱についてよく理解しています。発熱の仕組みを科学的に探究する力が身に付いています。
- ③ 地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方をよく理解しています。その知識・技能を活用する力が身に付いています。

### 育てたい力と手立て

- ① 適用して考える力  
→ 例えば、電流の規則性を学んだ後に、適用問題を解き、確実に使えるか確かめてみるような学習を授業や家庭学習で積み重ねていくようにします。
- ② 自己の考えを深め、広げる力  
→ 結果の表やグラフ、シミュレーション資料などを考察する際、自己の考えを深め広げられるように、友達との対話や教師の助言を工夫していきます。

## 生徒質問紙調査の結果から（全国と比較して）

### ○ 「授業の予習・復習」の定着

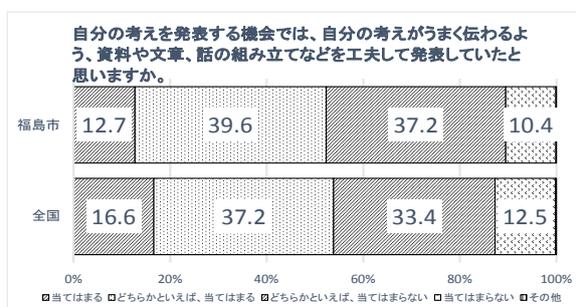
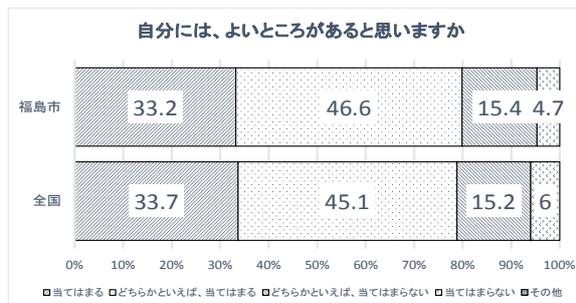
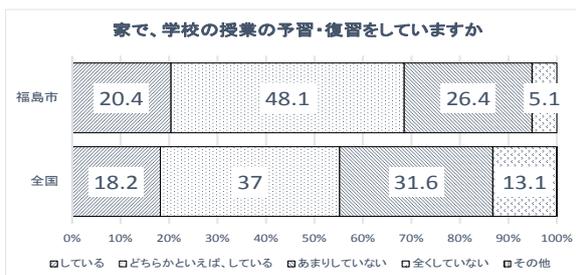
「家で学校の授業の予習・復習をしている」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は68.5%（全国比+13.3%）と高く、予習・復習に力を入れている生徒が多いことがわかります。また、1日の家庭学習時間についても、「1時間以上勉強している生徒」の割合は全国を上回っています。学習習慣が定着していることは大きな成果であり、本市の強みであると言えます。

今後は、将来を見据えて、自分の課題にそった学習に主体的に取り組めるよう、その質的な向上を図っていきます。

### ○ 自己肯定感の高まりと工夫した発表

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問で、肯定的に答えた生徒の割合は全国に比べて高く、昨年度と比較しても増加しており自己肯定感が高まっています。

一方で、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」生徒の割合はやや低くなっています。工夫した発表につながるように、生徒の考えを注意深く見取り、個に応じた支援をしていきます。



## 福島市教育委員会の学力向上への取組

### ○ 日々の授業の充実に向けて

年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問や授業研究会を通してよりよい授業の実現に向けて助言し、個々の教員の指導力向上を図ります。

また、中学2年生数学科の授業において、生徒一人ひとりにきめ細かな学習支援を行うための学習支援員、サポーターを各中学校に配置するなどして数学科の学力向上を図ります。

### ○ 家庭学習の充実に向けて

本市の生徒はしっかりと家庭学習に取り組むことができます。市では昨年、家庭学習の質的な向上を図るため「家庭学習のスタンダード（福島市版）」を作成しました。「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図っていきます。

## 保護者の皆様へ

学力向上の第一義的な責任は学校にあります。学習習慣の確立のためには、家庭との連携が極めて重要であると捉えています。お子さんの学力をさらに向上させるために、以下の点について御協力をお願いいたします。

- ・ 帰宅してから就寝するまでの時間の使い方や、休日の過ごし方、ゲームやスマートフォン等についての約束事など、望ましい生活習慣の確立が学力向上には不可欠です。
- ・ 時間を上手に使い、自分に合った場所で、落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。
- ・ 今後も、お子さんの頑張りを大いに褒めてあげてください。御家族の温かい言葉や励まし新たな学習意欲へとつながっていきます。